# AUDIOPHILE 192

High-Definition 4-in/4-out Audio Card with Digital I/O and MIDI

# user guide

ENGLISH • FRANÇAIS • DEUTSCH • ESPAÑOL • ITALIANO • 日本語

日本語

# はじめに

M-Audio Audiophile 192をお買い上げ頂きまして誠に有難うございます。Audiophile 192は、コンピュータやデジタルオーディオワークステーション用のPCIインターフェイスで、オーディオ/MIDIパフォーマンスのためのプロフェッショナルなソリューションです。Audiophile　192は、コンピュータに高解像度な入出力4系統、MIDI入出力16系統のインターフェイスを提供します。Audiophile 192は、人気の高いM-Audioのデジタルレコーディングインターフェイスであるデルタシリーズの新製品で、頑強で信頼性の高いハードウェア設計と革命的なソフトウェアドライバのテクノロジーが凝縮されています。

お使いになる前に、本マニュアルをよくお読み下さい。Audiophile 192のインストールの方法や詳しい使い方について解説してあります。Audiophile 192の優れた性能についてよりご理解を深め使いこなすために本マニュアルをお役立て下さい。

# Audiophile 192について

Audiophile 192は、プロフェッショナルなクオリティのオーディオ/MIDIインターフェイスです。アナログ入力2系統、アナログ出力4系統（バランスまたはアンバランスTRS）搭載、頑丈なブレークアウトケーブルに、独立したS/PDIF同軸入出力をも装備しています。

Audiophile 192は、8kHzから192kHzもの範囲で内部サンプリングレートをサポートし、高解像度24-Bitオーディオパフォーマンスを実現します。外部デジタル機器には、S/PDIFを経由して32kHzから192kHzで同期します。Audiophile 192は、Windows XP、Windows 2000とMac OS Xで動作し、WDM、Windows WDM、ASIO II、GSIF II（下位互換）、Mac CoreAudio等の最もポピュラーな超レイテンシーのドライバをサポートします。

Audiophile 192は、柔軟性の高いソフトウェアミキサーとしても使用でき、ゼロレイテンシーの入力モニタリングが可能です。M-AudioのDeltaシリーズの新モデルであるAudiophile 192は、他のDeltaシリーズのPCIカードと同時に使用可能で、Windows XP（Mac OS Xでも複数カード使用のサポートは予定されています）では、コントロールパネルで簡単にシンク（同期）させることができます。MIDI入出力も備えたAudiophile 192は総合的なスタジオソリューションです。

# 特徴

- 周波数特性 20Hz～80kHz
- 驚異的なダイナミックレンジ113dBを実現する24-Bit 192kHzオーディオインターフェイス
- 内部サンプリングレート8kHz～192kHzをサポート、S/PDIFから外部サンプリングレート32kHz～192kHzとシンク（同期）
- Windows XP （SP1）、Windows2000 （SP2）、Mac OS X （10.2.8または 10.3.4以降）をサポート
- 超低レイテンシーのASIO II、WDM、GSIF II、Mac CoreAudioドライバをサポート
- バランス/アンバランスアナログ入力2系統（1/4 TRS）
- バランス/アンバランスアナログメイン出力2系統（1/4 TRS）
- バランス/アンバランスアナログモニター出力2系統（1/4 TRS）
- ステレオS/PDIF入出力（RCA同軸）
- MIDI入出力
- コントロールパネル・ソフトウェアで入力シグナルをモニター出力へルーティングしモニタリング可能
- コントロールパネル・ソフトウェアで柔軟なミキシング、ルーティング、マスタークロックなどを簡単に設定可能
- VST System LinkやWMA Proをサポート

# 製品パッケージ内容

- Audiophile 192 PCIカード1枚
- Audiophile 192ブレークアウトケーブル1本（アナログオーディオやMIDI接続）
- M-Audioドライバ CD-ROM（マニュアルはPDF形式で収録）
- M-Audio製品保証書
- Adobe社Acrobat Reader

# 動作環境

## Windows

- Pentium III – 700 MHz以上、256 MB以上のRAM （192kHzと96kHz使用時）
- Pentium III – 500 MHz以上、128 MB以上のRAM （48kHz使用時）
- DirectX 9.0b以降
- Windows XP （SP1）またはWindows 2000 （SP4）
- PCIスロット

## Macintosh

- Macintosh G4 733 MHz以上
- 512MB以上のRAM
- Mac OS X Jaguar （10.2.8以降）またはPanther （10.3.4以降）
- PCIスロット

# 著作権等

Windows、Windows XP、Windows 2000はMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。

Macintosh、Mac OS、Mac OS X、CoreAudioはApple Computerの商標または登録商標です。

その他の商標は該当所有者の商標または登録商標です。

# インストールの手順

## Audiophile 192のドライバソフトウェアをインストールする

ドライバソフトウェアのインストール方法は、どのオペレーティングシステムでも共通の手順です。Audiophile 192のドライバCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブに挿入します。CD-ROMからお使いのオペレーティングシステム用のインストーラを探します。コンピュータのシステムでオートラン（自動起動）機能が有効の時は、インストールウィザードが自動起動しインストールの手順が一つずつ進行します。WindowsまたはMacintoshでインストーラのソフトウェアを起動する上での詳しい説明は、以下の項をお読み下さい。

ドライバソフトウェアをインストールしてからコンピュータのカバーを取り外し、使用されていないPCIスロットにAudiophile 192をしっかりと装着します。

Windowsでは、ハードウェア（Audiophile 192）のインストールが終了したらコンピュータを起動します。ドライバソフトウェアのインストール手順に従い、引き続きインストールを続行し完了します。

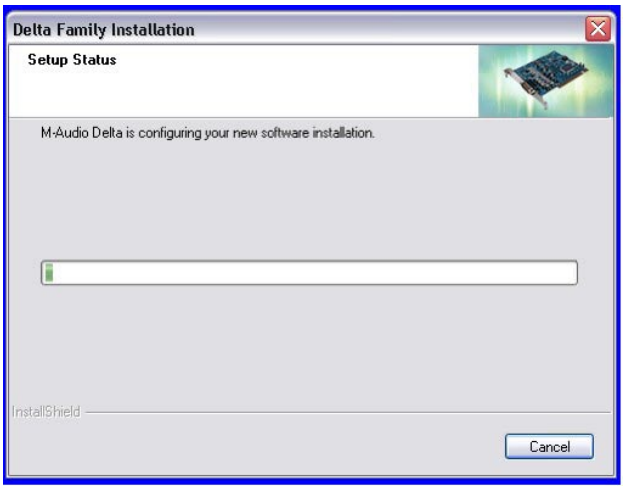
以下のお使いのハードウェアやオペレーティングシステムに合う項目をよくお読みになり、インストールの手続きを完了して下さい。

## Windows XP/2000

Audiophile 192のドライバCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブに挿入します。CD-ROMからお使いのペレーティングシステム用のインストーラを探します。コンピュータのシステムでオートラン（自動起動）機能が有効の時は、インストールウィザード（下図参照）が自動起動しインストールの手順が一つずつ進行します。

「Next（次へ）」をクリックすると、必要なドライバファイルがコンピュータのハードドライブにコピーされ、インストーラは次に進みます。

インストーラがファイルのコピーを完了したら、真中の「Yes, Power off my computer to install hardware」を選択して「Finish」をクリックします。インストールが終了したら、コンピュータの電源をOFFにした後、ハードウェア（Audiophile 192）をインストールします。



## ハードウェアのインストール方法

コンピュータシステムの電源をOFFにし電源ケーブルの接続を外します。

コンピュータシステムの本体の金属部分にさわり、静電気の発生を防止します。（電源ケーブルが外されている時は危険ではありません）

コンピュータのカバーを外し、使用していないPCIスロットを選びます。

お使いのコンピュータシステムの取扱説明書より、拡張カードや周辺機器に関する注意事項をご参照下さい。

使用していないPCIスロットのネジを外し、スロットカバーを外します。

Audiophile 192 PCIカードをPCIスロットに装着して、スロットにしっかり収まるまで差し込みます。

Audiophile 192 PCIカードの金具をスクリューなどでスロットに固定します

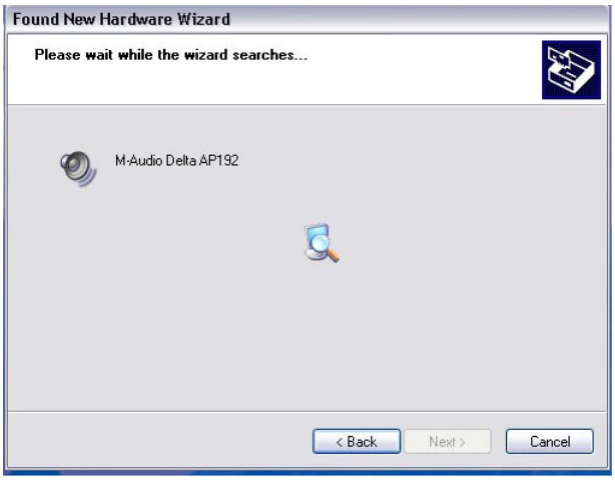
コンピュータのカバーを戻し、電源ケーブルをコンセントに差し込みます。

オーディオケーブルをAudiophile 192 PCIに接続します。詳しくは「Audiophile 192の接続」の項をご参照下さい。

## ドライバのインストール

コンピュータを起動します。新しいハードウェアの検索ウィザードが起動し、ドライバファイルの場所を選択します。デフォルトの「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択し「次へ」をクリックします。

Windowsはコンピュータのハードディスクにドライバファイルをコピーします。



インストール中に「ロゴテストに合格していません」というメッセージが表示されますが「続行」をクリックしてインストールを進めて下さい。

**注意：** Windows 2000では、このメッセージはドライバがWindowsのロゴテストに合格していないというものですが、続行してインストールを進めても問題ありません。

Windowsでソフトウェアのインストールが終了した画面が表示されます。「完了」をクリックします。

インストーラがファイルをコピーし終わったら、コンピュータを再起動します。コンピュータが再び起動したら、M-Audioのミキサーアイコンがシステムトレーに表示されます。

（ウィザードの最後に再起動を求められない場合がありますが、ファイルが全て正しくコピーされていることを確認するためにもコンピュータを再起動することをお勧めします）

以上で、Audiophile 192は使用可能な状態になりました。

## Mac OS X 10.2.x （Jaguar）

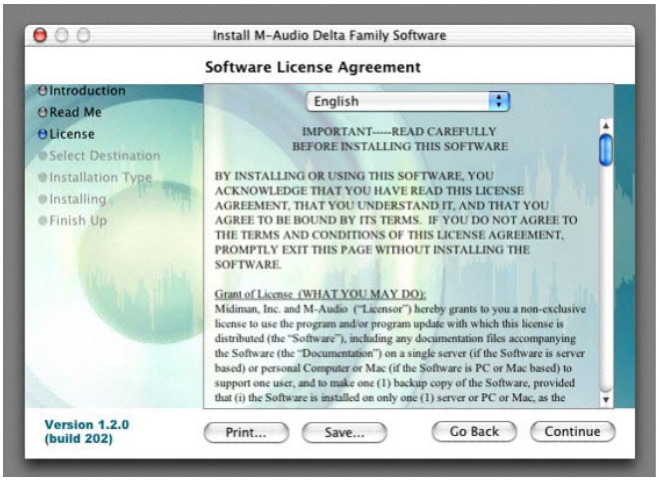
Audiophile　192ドライバCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブに挿入し、CDの内容を確認します。M-Audio　Audiophile　192インストーラの.dmgファイルをダブルクリックします。M-Audioボリュームアイコン（仮想ディスク）がデスクトップに表示されます。M-Audioのボリュームアイコンをダブルクリックして開きM-Audioのインストーラをクリックして起動します。

管理者の名前とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

インストーラで「ようこそM-Audio…」の画面が表示されます。「続ける」をクリックします。

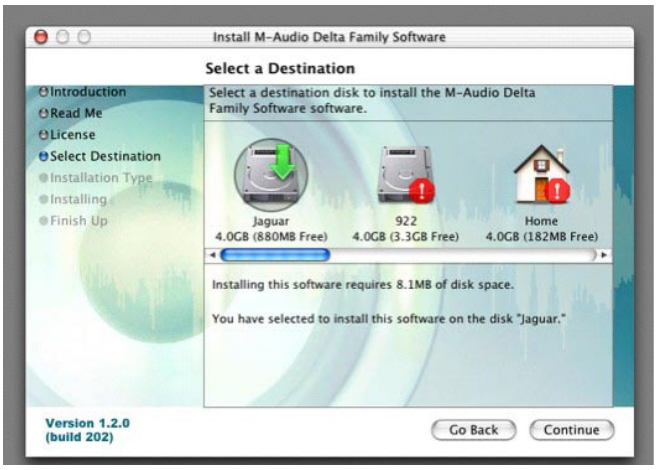
「大切な情報」が表示されます。本マニュアルが作成されてから変更/改善点などが記載されています。必ずお読み下さい。

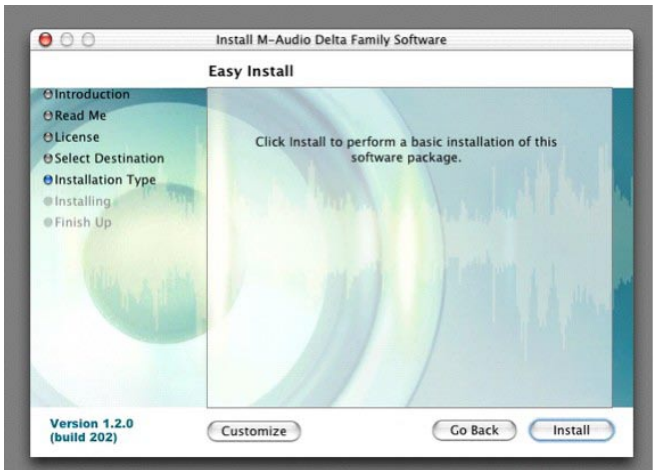
「使用許諾契約」が表示されます。「続ける」をクリックして使用許諾契約に同意する場合は「同意する」をクリックして下さい（使用許諾に同意できなければインストールは行えません）。




インストール先を選択し「続ける」をクリックします。

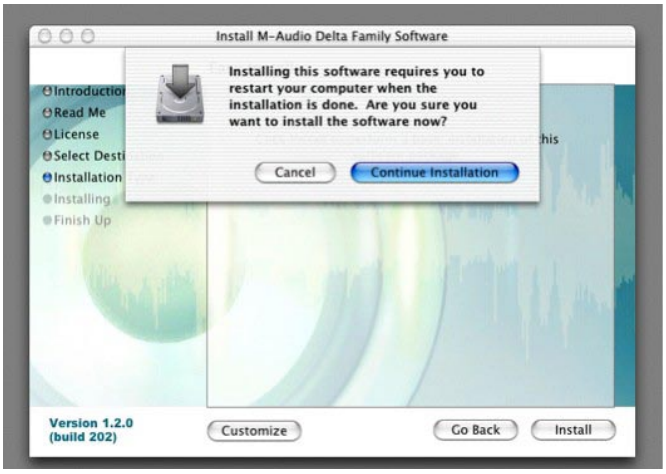
簡易インストールの画面で「インストール」をクリックします。

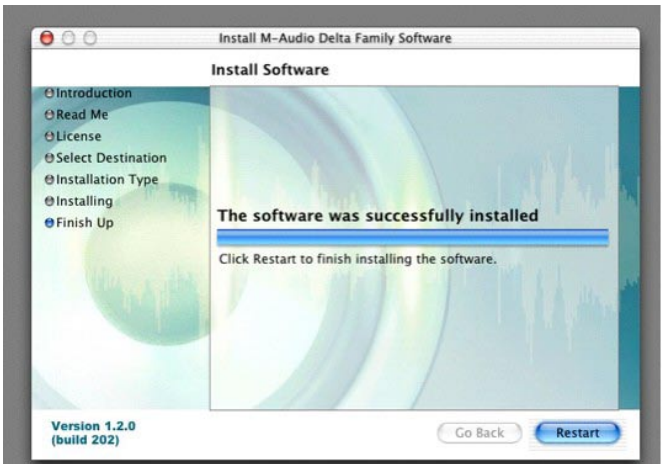


次のボックスで「インストールを続ける」をクリックします。

M-Audioドライバがインストールされ次にインストールの終了画面が表示されます。「再起動」をクリックします。



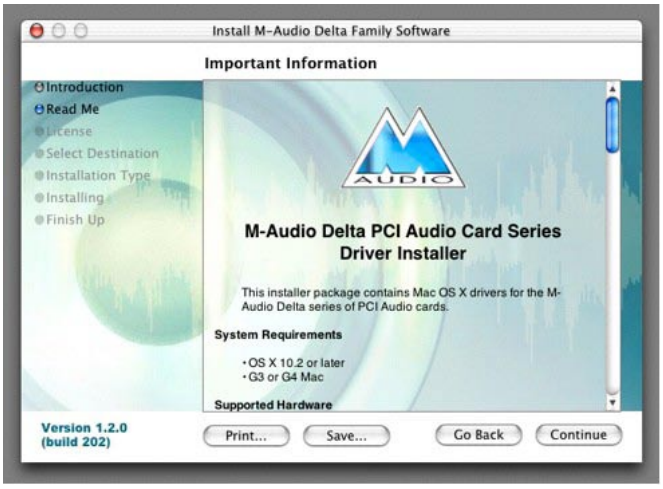

コンピュータを完全に終了させ電源コードの接続を外します。コンピュータのカバーを外しAudiophile 192を使用していないPCIスロットに装着します。

## Mac OS X 10.3.x（Panther）

Audiophile　192ドライバCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブに挿入し、CDの内容を確認します。M-Audio　Audiophile　192インストーラの.dmgファイルをダブルクリックします。M-Audioボリュームアイコン（仮想ディスク）がデスクトップに表示されます。M-Audioのボリュームアイコンをダブルクリックして開きM-Audioのインストーラをクリックして起動します。

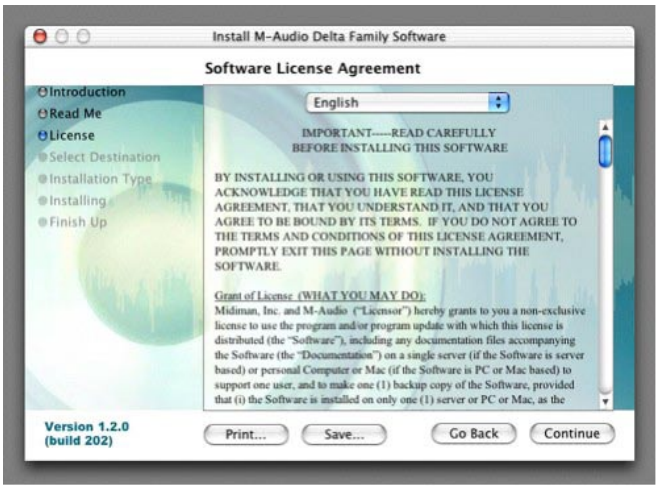
インストーラで「ようこそM-Audio…」の画面が表示されます。「続ける」をクリックします。

「大切な情報」が表示されます。本マニュアルが作成されてから変更/改善点などが記載されています。必ずお読み下さい。



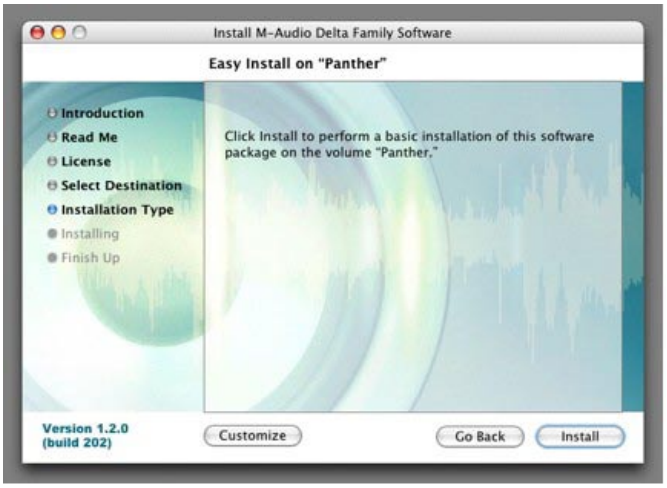
「使用許諾契約」が表示されます。「続ける」をクリックして使用許諾契約に同意する場合は「同意する」をクリックして下さい（使用許諾に同意できなければインストールは行えません）。

インストール先を選択し「続ける」をクリックします。



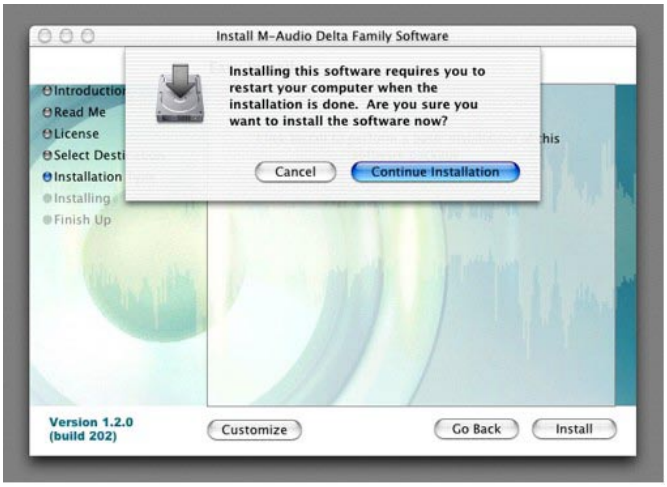
簡易インストールの画面で「インストール」をクリックします。

管理者の名前とパスワードを入力します。



「インストールを続ける」をクリックします。

M-Audioドライバがインストールされ次にインストールの終了画面が表示されます。「再起動」をクリックします。



コンピュータを完全に終了させ電源コードの接続を外します。コンピュータのカバーを外しAudiophile 192を使用していないPCIスロットに装着します。

## ハードウェアのインストール方法

コンピュータシステムの電源をOFFにし電源ケーブルの接続を外します。

コンピュータシステムの本体の金属部分にさわり、静電気の発生を防止します。（電源ケーブルが外されている時は危険ではありません）

コンピュータのカバーを外し、使用していないPCIスロットを選びます。

お使いのコンピュータシステムの取扱説明書より、拡張カードや周辺機器に関する注意事項をご参照下さい。

使用していないPCIスロットのネジを外し、スロットカバーを外します。

Audiophile 192 PCIカードをPCIスロットに装着して、スロットにしっかり収まるまで差し込みます。

Audiophile 192 PCIカードの金具をスクリューなどでスロットに固定します

コンピュータのカバーを戻し、電源ケーブルをコンセントに差し込みます。

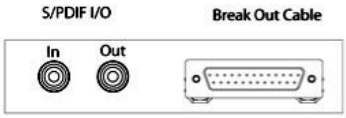
オーディオケーブルをAudiophile 192 PCIに接続します。詳しくは「Audiophile 192の接続」の項をご参照下さい。

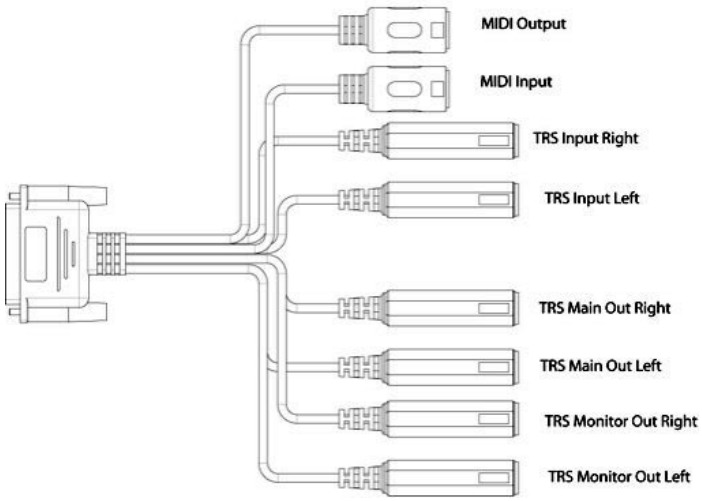
アップルメニューから「システム環境設定」を選択します。「サウンド」のパネルを開いて「出力」タブをクリックします。出力デバイスにAudiophile 192を選択します。

# Audiophile 192の接続

## Audiophile 192に装備されている接続端子：

- メイン入力端子1と2 – これらは、バランス/アンバランス1/4 TRS入力端子でブレークアウトケーブルに装備されています。コントロールパネル・ソフトウェアやDAWアプリケーションで入力信号を割当てることができます。ラインレベル機器を接続します。
- S/PDIF入力端子 – これは、S/PDIF同軸（RCA）入力端子でPCIカードに装備されています。コントロールパネル・ソフトウェアやDAWアプリケーションで入力信号を割当てることができます。S/PDIFデジタル機器を接続します。
- メイン出力端子1と2 – これらは、バランス/アンバランス1/4 TRS出力端子でブレークアウトケーブルに装備されています。出力信号は、DAWアプリケーションからのみ割当て可能です。但し、出力レベルは、コントロールパネル・ソフトウェアのWavOut 1/2（MacではS/W RET 1/2）のレベルフェーダで調整できます。ヘッドフォンアンプ、アンプ、外部録音機器などを接続します。
- モニター出力端子1と2 – これらは、バランス/アンバランス1/4 TRS出力端子でブレークアウトケーブルに装備されています。Audiophile 192の内部ダイレクトモニタリングミキサーから出力信号が送られてきます。アンプやパワードモニターを接続します。
- S/PDIF出力端子 – これは、S/PDIF同軸（RCA）出力端子でPCIカードに装備されています。コントロールパネル・ソフトウェアのPatchbay/Router（パッチベイ/ルーター）のページからのみ割当て可能です。S/PDIFデジタル機器（CDレコーダー、デジタルミキサー等）を接続します。
- MIDI入出力端子 – これは、標準のMIDI入出力用5ピンDIN端子でブレークアウトケーブルに装備されています。MIDIキーボードやコントローラ等の機器に接続します。



# コントロールパネル・ソフトウェアを使用する

Audiophile 192のコントロールパネル・ソフトウェアにより、コンピュータとDAW（デジタルオーディオワークステーション）アプリケーションの簡単でパワフルなインターフェイスとなります。コントロールパネル・ソフトウェアでAudiophile 192の入力のどれでもモニター出力にミックスし録音しながらオーディオ音源をゼロレイテンシーでモニターすることができます。モニター出力は、ソフトウェアミキサーの出力から信号を受信し、S/PDIF出力端子は、パッチベイ/ルーティングページで割当てが可能です。

Audiophile 192のコントロールパネルは、ドライバのインストールが終了すると同時にコンピュータのシステムにインストールされます。コントロールパネル・ソフトウェアの起動方法：

Windows – 画面右下のシステムトレーにある小さな「M」の形のアイコンをダブルクリックするとコントロールパネル・ソフトウェアが起動します。

Mac – システム環境設定の中にAudiophile 192コントロールパネルがあります。

**注意：**コントロールパネル・ソフトウェアは、ASIO対応音楽プログラムのオーディオ設定ページから起動することもできます。

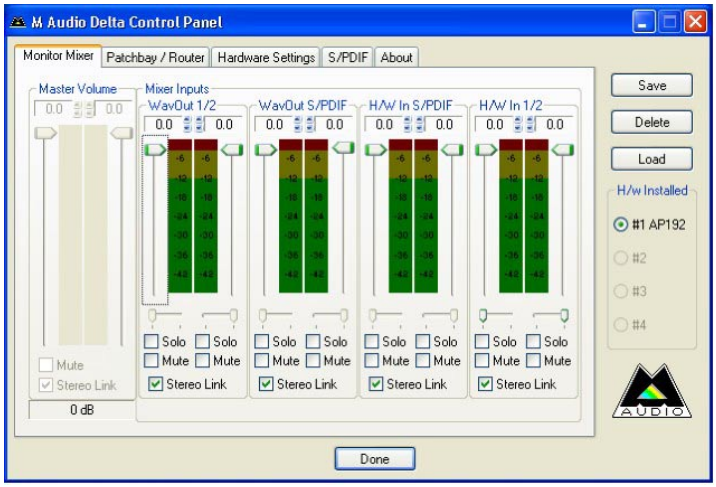
次項のスクリーンショットはWindowsのコントロールパネルです。多少の外見上の違いはありますが、Macのコントロールパネルも機能的に同等です。実際の機能に違いがあるものについては次項で解説しています。

## Monitor Mixer（モニターミキサー）ページ

モニターミキサーのページには、Audiophile 192ソフトウェアモニターミキサーに信号を送る入力信号をコントロールするフェーダーが装備されています。モニターミキサーの出力は、アナログモニター出力に送信されます。

入力はAudiophile 192のアナログ入力とデジタル入力からのオーディオ信号とDAWアプリケーションからのオーディオ信号を受信します。各入力にはそれぞれ、ミュートとソロを有効/無効にするボックスがあり、Stereo Linkのボックスをチェックするとチャンネルがリンクされます。フェーダーは減衰限定で、入力レベルを最大値からのみ下げることができます。

メイン出力の全体の出力レベルは、S/W RET 1/2（WavOut 1/2）のレベルフェーダでのみ調整できます。




### WavOut 1/2*

これらのフェーダーは、モニターミキサーにあるDAWアプリケーションで割当てられたメインのオーディオ出力信号とアナログハードウェア出力1と2の全体の出力信号をコントロールします。

***注意：**Macでの表示はSW Out 1/2です。

### WavOut S/PDIF*

これらのフェーダーは、モニターミキサーでS/PDIFデジタル出力に割当てられたDAWアプリケーションからのオーディオ出力信号のレベルを調整します（出力の割当てはDAWアプリケーションで選択できます）。これらのフェーダーは、S/PDIF出力レベルには関係しません。

***注意：**Macでの表示はSW Out S/PDIFです。

### H/W in S/PDIF

これらのフェーダーは、S/PDIFデジタル入力に直接接続するオーディオ出力信号のミキサーレベルをコントロールし、ゼロレイテンシーのハードウェアモニタリングを実現します。S/PDIF入力とS/PDIF出力は同時にモニタリングできません。コントロールパネルのS/PDIFのページで選択ができ、一旦選択すると、モニターミキサーでは残りは全てグレーに消えた状態になります。

### H/W in 1/2

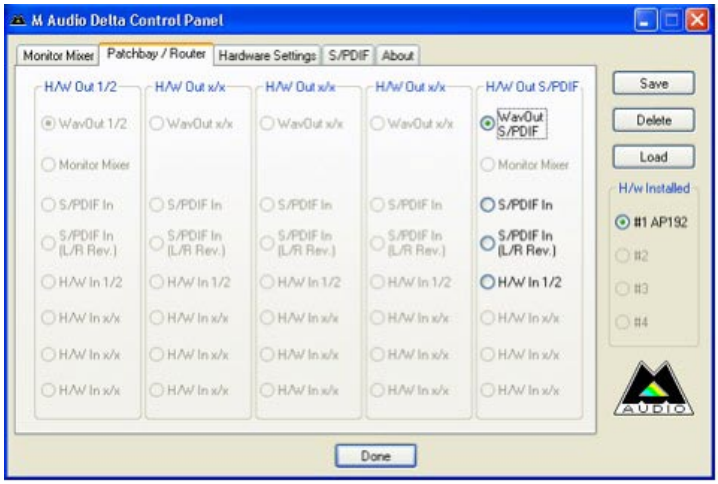
これらのフェーダーは、アナログ入力に直接接続したオーディオ出力信号をコントロールし、モニターミキサーでゼロレイテンシーのハードウェアモニタリングを実現します。

## Patchbay/Router（パッチベイ/ルーター）ページ

Patchbay/Router（パッチベイ/ルーター）ページでは、Audiophile 192のS/PDIF出力端子へのルーティングを設定します。Audiophile 192のPCIカードが2枚以上インストールされている場合、それぞれの出力はこのページに表示され、HW Installedのセクションでカードの番号を選択すると選択したカードの設定状況が表示されます。

S/PDIF出力のデフォルト設定は、S/PDIF SW Return（WindowsではWavOut S/PDIF、MacではSW Out S/PDIF）です。これは通常DAWアプリケーションのS/PDIF出力に割当てられています。ここで別の選択をすると、DAWアプリケーションに割当てられた出力信号は無効になります。H/W In 1/2では、アナログ入力をデジタルに変換し、この信号をS/PDIF出力を経由して別のデジタル機器へルーティングします。

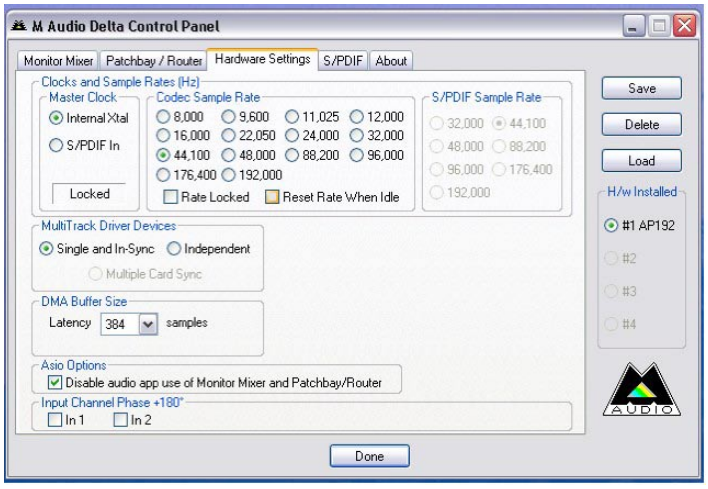
**有効な音源：**




- WavOut S/PDIF* – オーディオ信号は、Audiophile 192のS/PDIF出力に割当てられたDAWアプリケーションから出力されます。出力レベルはDAWアプリケーションで調整します。
  *注意：Macでの表示はSW Out S/PDIFです。
- S/PDIF In – Audiophile 192のS/PDIF入力で受信するオーディオ入力信号（ダイレクトモニタリング）
- S/PDIF In（L/R Rev.） – Audiophile 192のS/PDIF入力で受信するオーディオ入力信号（ダイレクトモニタリング）で、左右のチャンネルが逆になっています。
- H/W In 1/2 – Audiophile 192のアナログ入力で受信するオーディオ入力信号

## Hardware Settings（ハードウェア設定）ページ

Hardware Settings（ハードウェア設定）ページでは、マスタークロック設定、サンプリングレート設定、バッファサイズ設定などにアクセスできます。




**Master Clock（マスタークロック）**

このセクションでは、マスタークロックの発信源を選択します。Internal（デフォルト設定）を選択するとAudiophile 192の内部クロックに設定され、S/PDIF Inを選択するとS/PDIF入力から受信するクロックに設定されます。

Internalを選択すると、その下のステータス部分に常時「Locked」と表示されます。S/PDIFを選択すると、有効なS/PDIF信号が入力で検知された時のみ「Locked」と表示されます。有効なS/PDIF信号を受信していない時や、入力信号が不正な場合は「Unlocked」と表示されます。外部クロックにシンク（同期）している時、適切に同期化させるよう外部クロックのサンプリングレートをこのページで手動設定する必要があります。

**Codec Sample Rate（Codecサンプリングレート）**

このセクションでは、新しいファイルを録音するためのサンプリングレートを選択します（Internalの内部クロックに設定されている時は、そのファイルのサンプリングレートは自動的に選択されています）。再生サンプリングレートは、再生中以外に手動で設定することも可能です。再生中はDAWアプリケーションで選択されたサンプリングレートが反映されます。DAWアプリケーションでサンプリングレートを変更すると、このパネルで選択したサンプリングレートがそれに合わせて変更されます。

DAWアプリケーション側でサンプリングレートをコントロールできないようにするには、Rate Lockedのボックスにチェックを入れて、選択したサンプリングレートが受信するサンプリングレートに左右されないよう固定します。Reset Rate When Idleをチェックすると、録音中に受信するサンプリングレートが変化しても選択したサンプリングレートはそのままの状態です。

**S/PDIF Sample Rate：**

S/PDIFからの外部クロックに同期させたい時は、このページで外部クロックと同一のサンプリングレートを手動設定する必要があります。

**MultiTrack Driver Devices（マルチトラックドライバデバイス）**

M-Audio Deltaシリーズと同様に、同時に複数のチャンネルをサポートするDAWアプリケーションを使用していればAudiophile 192は複数のDeltaカードと同期することが可能です。

「Single（In-Sync）」を選択すると、全てのオーディオチャンネルが同時に録音または再生を開始します。

「Independent」を選択すると、全てのオーディオチャンネルは別々に録音または再生を開始します。2つ以上のアプリケーションでAudiophile 192を同時に使用する必要がある場合に便利です。

「Multiple Card Sync」は、2つ以上のDeltaカードがインストールされている場合に有効です。このオプションを選択すると、全ての機器で全てのチャンネルが同時に録音または再生を開始します。

**DMA Buffer Sizes（DMAバッファサイズ、Windowsのみ）**

このセクションでは、オーディオバッファリングに配分するメモリーのサイズを特定します。一般的にバッファサイズが小さいとレイテンシーも低くなりますが、遅いシステムでは安定性が低くなります。再生中にクラッキング、音飛び、ノイズなどが起こる場合は、バッファサイズを大きくして試して下さい。

一般に、録音時には低レイテンシーが望まれ、ミキシング時には安定性の高さがより重要になります。録音時にはバッファサイズを小さく、ミキシング時にはバッファサイズを大きく設定すると最適な結果が得られます。

**ASIO Options（ASIOオプション）**

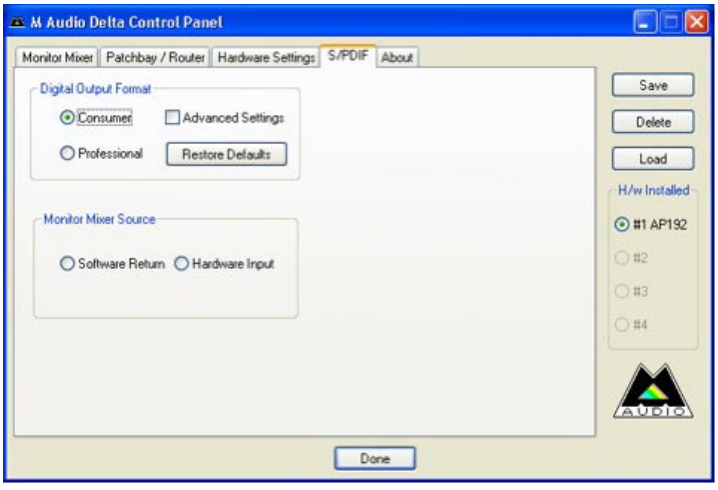
このボックスにチェックを入れると、DAWアプリケーションのASIOドライバでモニターミキサーやルーターを使うことができません。DAWアプリケーション側の内部ルーティングを使うことになります。

**Input Channel Phase（入力チャンネルの位相）**

いずれかのボックスにチェックを入れると、対応する入力チャンネルの位相を反転します。ステレオ入力信号の位相調整に便利です。

## S/PDIFページ

このページでは、デジタル入出力信号に関して様々な選択ができます。




**Digital Output Format（デジタル出力フォーマット）**

デジタル出力フォーマットがS/PDIFなら「Consumer」を、AES/EBUなら「Professional」を選択します。デフォルト設定はS/PDIFです。デフォルトの「Consumer」は正確なS/PDIFフォーマットでコンシューマー機器全てに普及しています。一方、「Professional」はAES/EBUタイプのデータ信号で電気的にはS/PDIFです。AES/EBU機器の中には、S/PDIFで認識される場合もあります

「Advanced Settings」のボックスにチェックを入れると、エンハンスド、コピープロテクションや追加オプションなど応用機能にアクセスするダイアログボックスが表示されます。

**Monitor Mixer Source（モニターミキサーソース）**

S/PDIF入力を使って録音する時にモニターミキサーに送信されるオーディオの発信源を選択します。Software Return（DAWアプリケーション出力）、Hardware Input（ダイレクト入力モニタリング）から選択します。

## Aboutページ

このページには、ハードウェアと現在のドライバソフトウエアのバージョン情報が書かれています。テクニカルサポートに連絡を取る場合、必ずこの情報をお知らせ下さい。右下のCopyrightはM-Audioのウェブサイトにリンクされています。インターネットをお使いの場合、クリックするとM-Audioのウェブサイトにアクセスできます。

# お問い合わせ先

テクニカルサポートへのご質問は、M-Audioのウェブサイト www.m-audio.comからテクニカルサポートのフォームにご記入になりオンラインでお送り下さい。


**M-AUDIO U.S.**
**5795 Martin Road, Irwindale, CA 91706-6211, U.S.A.**

| | |
|---|---|
| Sales Information | 626-633-9050 |
| Sales Information email | info@m-audio.com |
| Tech Support | 626-633-9055 |
| Tech Support | email techsupt@m-audio.com |
| Fax | 626-633-9060 |
| Internet Home Page | http //www.m-audio.com |

**M-AUDIO Deutschland Germany**
**Kuhallmand 34, D-74613 Ohringen, Germany**

| | |
|---|---|
| Sales Information | 49 7941 98 7000 |
| Sales Information email | info@m-audio.de |
| Technical Support | 49 7941 98 70030 |
| Technical Support email | support@m-audio.de |
| Fax | 0 7941 98 70070 |
| Internet Home Page | http //www.m-audio.de |

**M-AUDIO U.K.**
**Unit 5, Saracen Industrial Estate, Mark Road, Hemel Hempstead, Herts HP2 7BJ, England**

| | |
|---|---|
| Sales Information phone | 44 0 1442 416590 |
| Sales Information fax | 44 0 1442 246832 |
| Sales Information email | info@maudio.co.uk |
| Technical Support PC | 44 0 1309 671301 |
| Technical Support Mac | 44 0 1765 650072 |
| Technical Support email | support@maudio.co.uk |
| Internet Home Page | http //www.maudio.co.uk |

**M-AUDIO Canada**
**1400 St-Jean Baptiste Ave. #150, Quebec City, QC G2E 5B7, Canada**

| | |
|---|---|
| Tel | 418-872-0444 |
| Fax | 418-872-0034 |
| Email | midimancanada@m-audio.com |
| Internet Home Page | http //www.m-audio.ca |

**M-AUDIO France**
**Unit 5, Saracen Industrial Estate, Mark Road, Hemel Hempstead, Herts HP2 7BJ, England**

| | |
|---|---|
| Informations Commerciales | 0810 001 105 |
| Informations Commerciales email | info@m-audio.fr |
| Assistance Technique | 0820 000 731 PC ou 0820 391 191 Mac at général |
| Assistance Technique email | support@m-audio.fr.com ou mac@m-audio.fr |
| Fax | +44 0 144 224 6832 |
| Site Internet | http //www.m-audio.fr |

**M-AUDIO Japan**
**460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 2-18-10 丸の内アネクス 6F**

| | |
|---|---|
| テクニカルサポート (PC)： | win-support@m-audio.co.jp |
| テクニカルサポート (Mac)： | mac-support@m-audio.co.jp |
| テクニカルサポート (TEL)： | 052-218-0859 |
| FAX： | 052-218-0875 |
| ホームページ： | http://www.m-audio.co.jp |

# 技術仕様

| | |
|---|---|
| **サンプリングレート** | 8, 9.6, 11.025, 12, 16, 22.050, 24, 32, 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192kHz |
| **メイン入力：** | |
| **最大入力** | +14.2dBu（+4 Vrms）バランス<br>+14.2dBu（+4 Vrms）アンバランス |
| **S/N比　(a-weighted)** | –113dB @ 48kHz |
| **ダイナミックレンジ（a-weighted）** | –113dB @ 48kHz |
| **歪み率** | 0.0006%, 1kHz, -1dBFS @ 48kHz |
| **周波数特性** | 0.1 dB, 20Hz to 20kHz @ 48kHz<br>±0.1 dB, 20Hz to 40kHz @ 96kHz<br>±0.5 dB, 20Hz to 80kHz @ 192kHz |
| **クロストーク** | –130dB, 1kHz, channel-to-channel |
| **インピーダンス** | 20kΩ（バランス）<br>10kΩ（アンバランス） |
| **メイン出力：** | |
| **最大出力** | +14dBu（+3.9 Vrms）バランス<br>+8dBu（+1.95 Vrms）アンバランス |
| **S/N比（a-weighted）** | –108dB @ 48kHz |
| **ダイナミックレンジ（a-weighted）** | 109dB @ 48kHz |
| **歪み率** | 0.0023%,1kHz, -1dBFS @ 48kHz |
| **周波数特性** | ±0.1dB, 20Hz to 20kHz @ 48kHz<br>±0.1dB, 20Hz to 40kHz @ 96kHz<br>±0.5dB, 20Hz to 80kHz @ 192kHz |
| **クロストーク** | –105dB, 1kHz, channel-to-channel |
| **インピーダンス** | 300 Ω（バランス）<br>150 Ω（アンバランス） |

# 製品保証とユーザー登録について

## 製品保証

適切に使用されている場合には、本製品をお買い上げいただいた日より一年間は保障期間となります。しかしながら、不適切な使用方法による破損の場合、ご購入者が所有していない場合、M-Audioの正規販売店でのお手続きがない場合、M-Audioでのユーザー登録がお済みでない場合などは保証の対象となりません。但し、電源アダプタやケーブルなどの付属品は、適切な使用の結果不具合が生じた場合でも保証対象には含まれません(初期不良の場合は除く)。

M-Audioへ製品を送付する場合には、事前にM-AudioのRA(Return Authorization)番号を取得する必要があります。製品のRA番号を取得するには、「M-Audioへのお問い合わせ」を参照しM-Audioへご連絡頂ければ、M-Audioのカスタマーサービスが症状などをお伺いしM-Audioへ製品の送付が必要と判断した場合にRA番号を発行させて頂きます。製品のRA番号を取得後、具体的な症状や送付理由を書面に記述し、製品を保護する安全な梱包を施した上、外装パッケージにRA番号を明記しM-Audioまで送付下さい。製品の修理には発送時の送料、返却時の送料と発生し得る手数料はご購入者の負担となります(初期不良の場合は除く)。

お客様の過失または正当でない取り扱いにより生じた不具合でM-Audioが修理の必要を認めた場合、お客様に修理代金を請求するものとします。お客様は修理代金を支払い製品の修理をご希望するか、それとも、修理をせずにお客様のもとに返却をご希望するか選択する権利を有します。

本製品の操作または使用、ソフトウェアまたは関連文書に含まれているエラーまたは障害、サービスの中断、業務または予期利益の損失または中断、ソフトウェアおよび関連文書の提供、実行、使用によって生じた付随的または間接的な障害や、ご購入者の損害や製品に対して過剰に支払われた金額に対して、お客様の請求の形式に関わらずM-Audioは一切責任を負わないものとします。またM-Audioの製品が何らかの特別な用途に適合するという保証には応じません。

本製品保証の解釈は米国カリフォルニア州の法律に準拠するものとします。保証規定の一部が無効または施工不可能な場合、それ以外の保証規定の有効性には影響せず、その規定どおり有効性を持ち施工されます。この記載に従いいかなる措置もその目的を達成できない場合、ここに記された全ての責任制限と障害の除外は有効に存続し、引き続き有効となります。

## ユーザー登録について

ユーザー登録を行わなければ製品保証や技術的なサポートを受けることができません。ユーザー登録を行うには、次の3つの方法があります。環境に合わせた方法でユーザー登録を行って下さい。

**1.）コンピュータで（一般的なWebブラウザ）エムオーディオジャパンWebサイトへアクセスできる方：**

エムオーディオジャパン　オンラインユーザー登録ページhttp：//www.m-audio.co.jp/register/index.htmlにて、必要事項を入力して送信して頂ければ弊社製品のユーザーとして御登録致します。尚、ユーザー登録完了の御案内は行っておりませんのでご了承下さい。

**2.）携帯電話でエムオーディオジャパンWebサイトへアクセスできる方：**

エムオーディオジャパン モバイルサイトのオンラインユーザー登録ページhttp：//www.m-audio.co.jp/mobile/にて、必要事項を入力して送信して頂ければ弊社製品のユーザーとして御登録致します。尚、ユーザー登録完了の御案内は行っておりませんのでご了承下さい。

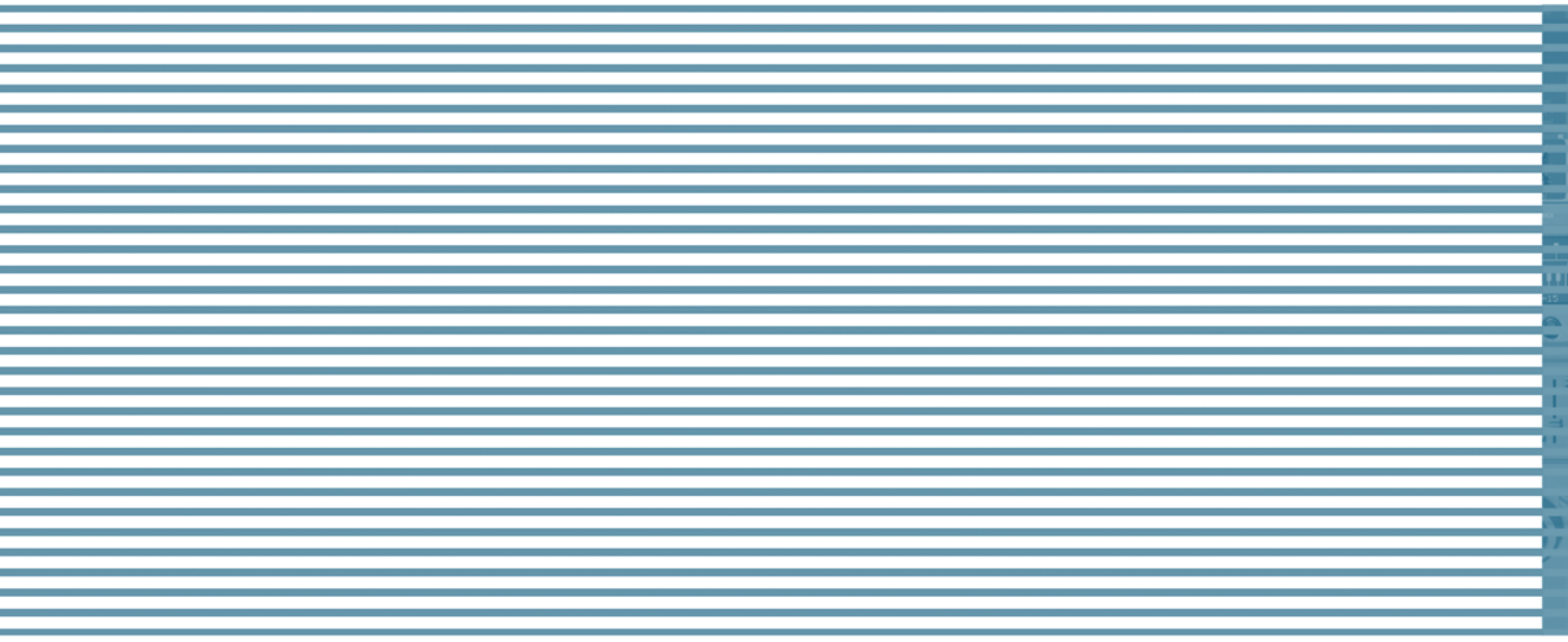
**3.）インターネット接続環境が無い方：**

付属の「ユーザー登録はがき」に必要事項を記入して返信して頂ければ、弊社製品のユーザーとして御登録致します。尚、ユーザー登録完了の御案内は行っておりませんのでご了承下さい。

M-AUDIO® Audiophile 192

Tested to comply with FCC standards

FOR HOME OR STUDIO USE



M-AUDIO

www.m-audio.com